

# 公益社団法人日本技術士会 CPD行事 実施報告書

開始日時	平成28年1月30日(土)	15時00分
終了日時	平成28年1月30日(土)	17時00分
名称	第32回CPD新春講演会	
主催者	公益社団法人日本技術士会 千葉県支部	
開催場所	千葉市ビジネス支援センター きぼーる 15階 多目的室(千葉市中央区中央4-5-1)	
行事内容	テーマ:「高レベル放射性廃棄物の地層処分について」 講師:安保 秀範氏(技術士 建設部門、総合技術監理部門) 原子力発電環境整備機構(NUMO)技術部副部長 技術企画Grマネージャー 塩谷 敏彦氏 原子力発電環境整備機構(NUMO)地域交流部第1G課長 質疑応答	
参加人数	46名	

第32回CPD新春講演会は高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する講演会を行った。

東日本大震災とそれに伴う福島第1原子力発電所の事故以降、我が国の原子力利用をどうするかが社会的に大きくクローズアップされている。一方で、これまでの原子力発電により既に相当量の放射性廃棄物が存在しており、今後原子力を継続利用するしないにかかわらず、廃棄物処分の問題は我々が避けては通れない課題である。高レベル放射性廃棄物の処分の必要性、処分方法や安全性などについてご講演をいただき一緒に考える良い機会を得た。

NUMOはHLW地層処分の事業主体であり、福島第一原発の指定廃棄物およびその最終処分場は対象にしておらず、法律上も技術上も全く関与がないことをお断りしておきたいとの説明から始まった。

講演ではわかりやすく尚且つ完成度の高いプレゼを駆使して行った。

「高レベル放射性廃棄物(HLW)の問題は私たちの世代で解決しなければならない課題である。使用済燃料を再処理し、その廃液をガラスと一緒に溶かし合わせて固めた固化体が高レベル放射性廃棄物である。」と、基本的なことから説明があった。

「地層処分の基本的な考え方は地下の環境が本来持っている閉じ込める性質を利用して閉じ込めることにある。」として安全性についても説明があった。今回の講演である程度理解が深まったが、まだ課題も多いと感じた。

講演終了後、参加者の関心を反映し活発に質疑が行われ、質疑の予定時間を十分確保していたにもかかわらずオーバーするほどであった。

